

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:松村 千里

所属:勝山市立成器西小学校

記録日:28年2月28日

キーワード:「知的障害を伴う自閉症スペクトラム症」

「書きの困難」「コミュニケーション」

「思いを伝える作文の指導」「文によるコミュニケーション」「他者理解による行動の調整」

【対象児の情報】

・学年

小学三年生

・障害名

知的障害を伴う自閉症スペクトラム

・障害と困難の内容

- ・書字に大変時間がかかり、さらに一貫した話題で周りの状況や相手の心情を表す文をつくることができない。
- ・自分の行動を優先しすぎて、周りとの人とトラブルになることが多い。

【活動目的】

・当初のねらい

心情や周りの状況を表すことばを習得して、一貫性のあるレポートや日記などを書くことができる。
文を書くことを通して人の心情が理解できるようになり、自分の行動を調整することができる。

・実施期間

H27年5月1日～1月31日

・実施者

松村千里

・実施者と対象児の関係

クラス担任

【活動内容と対象児の変化】

・ 対象児の事前の状況

- ・ 入学時の書字のレベルはペンを持って、思い描いた線を描くことが難しく、1年1学期でようやくなぞり書きができる程度であったが、2年間の指導により特殊音節の表記も下学年の漢字も一部書けるまでになった。しかし、書字にはひどく時間がかかり途中で疲れてしまう様子が見られた。
- ・ 行事の感想や日記などの課題では、「ラーメンを食べました。おしかった。ぼくがすきなのはしんかんせんです」など、単文表記でテーマの一貫性も崩れてしまうことが多くみられた。
- ・ 一方、会話はきれいな発音で流暢に話し「おかあさんが、家でごはんを作ったけど失敗した。お母さんもかわいそう。泣いてまうわー。」など流行のギャクなども取り入れることができる。
- ・ 好きな本を読んだり iPad で大好きな動画を視聴し出したりすると自分からは中断できなくなることが多い。また、教師や友だちから授業が始まったから中断するように注意を受けるが、頑なに見続けるために、ついには叱られることも多くなってきた。さらに、友だちから注意を受けると「うるさい！」と怒り出してしまい、楽しかった時間が、叱られたり怒ったりして不愉快な結果になってしまうことが増えた。

活動の具体的内容

《心情や周りの状況を表すことばを習得して、一貫性のあるテーマで文を書く取り組み》

その1

[話せる文字パッド]による指導

◎筆記の困難さに対応でき、文の構成を無理なく理解でき、文の読み上げ機能を使って発表ができる[話せる文字パッド]を使用した。内容についてクラス児童や担任と話し合い、修正をしたり文を付け加えたりした。そして、上達を確認しながら家庭での宿題としていった。また、保存機能がないために作った文はスクリーンショットで画像として保存した。



話せる文字パッド

〔指導の経過〕

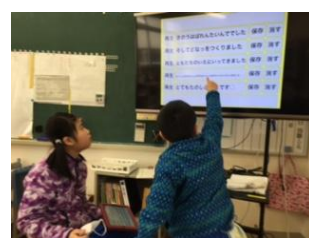
国語の授業で週3回の日記と週2回の僕の学校紹介レポート作りを実施した。書かれた内容について担任やクラスメンバーと話し合いを行い、テーマの一貫性や新しいことばで表現できないかなどを一緒に考えた。見つけた修正箇所は、その場で打ち直した。9月の頃には心情を表すあたらしいことばを習ったり、見つけたりすることができるようになった。

指導の段階 児童の上達を見ながら①から⑤へと進めた。

- ① 1人で日記を[話せる文字パッド]で書く。
- ② 内容について話し合い、文の一貫性の修正や新しい表現を使って修正する。
- ③ 事前に教師と話し合い、キーワードが書かれたメモを参照しながら、家庭で[話せる文字パッド]で書く。
- ④ 事前に日記やレポートのテーマだけを決めて、家庭で[話せる文字パッド]で書く。
- ⑤ テーマも自分で決めて、家庭で[話せる文字パッド]で書く。

再生	きょうひきのひるぼがありました○
再生	のあちゃんがだいかつやくしました○
再生	ふじいせんせいもいました
再生	ほけんのやつでした○
再生	たのしかったです

5月の日記の一例



日記を友だちと話し合っ、必要な箇所はその場で修正した。

その他の支援としては、状況の変化に注目させるために、[カメラ]で連続撮影した画像や動画に対応した説明文を作る活動も行った。

その2

[keynote]による指導

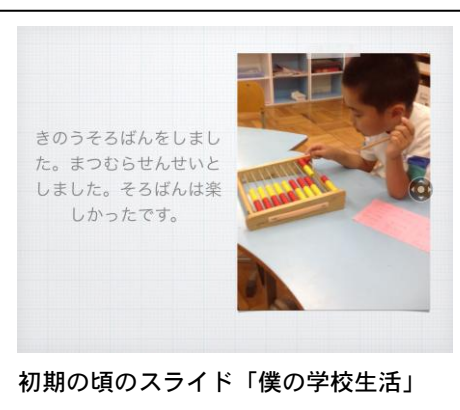
◎一般向けのプレゼンアプリであるが、スライドアニメーションが多種準備されており本児の制作意欲を高めることができることと、スライドを作り貯めることができるなど今後の発表なども意識して使用した。『僕の学校生活』『習字の勉強』などのテーマでスライドを作っていた。指導の終盤には、学校でスライドのタイプとアニメーションと画像を選択しておいて、宿題として画像の説明文を打ち込んでくる活動にすることができた。また、入力はひらがなであるが漢字変換予測機能が使えるために、漢字混じり文で書くこともできた。



keynote

〔指導の経過〕

〔話せる文字パッド〕のように5つの枠がなくても、一貫したテーマで文章が書けるようになった段階で、一貫したテーマで複数スライドを作る活動と、画像を利用することで心情や周りの状況を読み取る活動に〔keynote〕を使用して、学校生活の説明文を書く活動を開始した。『僕の学校生活』の紹介スライド作りでは、「〇〇をした。楽しかった。」という単文を、いつ・誰が・何を・気持ち・誰に伝えたいなどの話し合いを重ね、その過程で気がついたことを文にして打ち込んだ。同時にスライドにアニメーション効果をつけることにも喜んで取り組めた。テーマは、学校生活でがんばっていることを友達や家族に見てもらいたいという動機から『僕の学校生活』『習字の勉強』が決まっていた。



初期の頃のスライド「僕の学校生活」

《書くことに関するその他の支援》

その3

[はなまる][Chatterkid]

◎[Chatterkid]は30秒の録音音声を、撮影したペットやぬいぐるみの口元がお話しているように動きをつけて再生できるアプリである。今回は日記の画像に録音して再生することで、まるで日記に口ができて語ってくれているような楽しさを演出できる。録音した画像は作品として保存できる。



Chatterkid

◎[はなまる]は自由に設定した目標（約束）をはなまるスタンプをつけながら応援する、スタンプ帳の電子版である。iPadやiPhoneを携帯していれば、目標の行動が見られたときに即評価することができる。

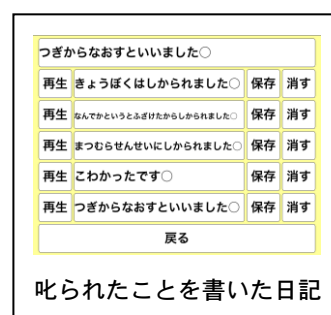
〔指導の経過〕

[Chatterkid]を使い、日記や作文の発表を行った。書いた作文がしゃべることで、発表は大変盛り上がった。どうしても単調になりがちな日記指導にアクセントを加えることができた。また、30秒の録音時間であるために、文自体を80文字程度にまとめる必要が出てくることと、音読の練習にもつながった。

◎日記にはその日の楽しかった出来事が書かれることがほとんどであったが、一人で宿題として書き上げることができるようになった10月頃より、注意されたことや反省やがんばりたいことが書かれるようになった。そこで、本児が自ら見つけた行動目標を応援するために「はなまる」を使った。書かれた内容をその後の生活に活かすことで、達成感や努力するなどの本児の心情を支援することにつながった。



はなまる



叱られたことを書いた日記

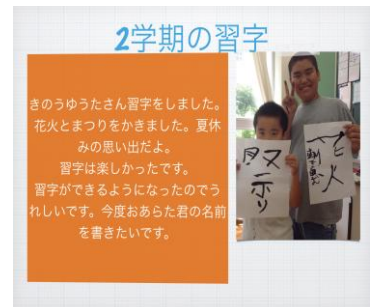
・対象児の事後の変化

日記に使用した[話せる文字パッド]では、書字に比べて約4倍早く文を打つことができました。そのために、手書きで日記を書いていた頃に見られた、疲れて途中で書かなくなるなどは全く見られなくなった。さらに、書字であれば文字のアンバランスさを気にして何度も書き直すために起こる思考の中断も無くなった。5つの書き込み枠があるため「いつ・どこで・誰が・何をした」などの起承転結が理解しやすく、テーマがそれてしまうこともなくなった。そして、読み上げ機能を使った発表は書き続ける動機となった。



こうした活動の積み上げは事実の記述が中心の日記から、体験して感じたこと→クラスの人に伝えたいこと→これからがんばりたいこと等を書くことができるようになった。

[keynotoe] を使ったレポート作りでは、本児が選択した画像について説明文をつけることでテーマの一貫性と保つことができたと同時に、画像から多様な情報や心情を読み取ることができた。本児はタップ入力と音声入力を使い分けたり、漢字変換予測機能を使いこなしたりしてスライドを作り続けることができた。また、用紙と書字では不可能な表現方法を [keynotoe] を使うことで手に入れた。このことは、他者に見て欲しいという意欲を高め、説明文に今風のギャクを取り入れたりするなどの工夫を凝らすようになった。さらに、学校生活のどの場面をスライドにしたいかを担任に伝え、写真を撮って欲しいと依頼することもできた。



予定外の成果として、経験を文章化することで振り返りや新しい目標を作り出すことができるようになり、発表活動を通して文章を介在したコミュニケーションを体験できた。

【報告者の気づきとエビデンス】

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

- ①文作り困難への支援を一体的多行的に行ったことで、一貫性のある文を書き表す力が育ったのではないかな。
- ②文を書くことを支えた心情は、書いた文（作品）を使った楽しいコミュニケーションの経験ではないかな。
- ③周りの様子や他者の心情を文にすることで、行動の調整ができるようになったのではないかな。

○気づきに関するエビデンス

[お話し文字パッド]を使用して文を作ったことで、一貫性のある文を無理なく制作することができた。その理由としては書字の困難性への対応ができたことと、5つの記入枠が用意されているために文を作る際に「始め・中・終わり」の見通しをもって書くことができたことと考える。また、読み上げ機能を使った発表方法は書く意欲を高めた。図-1は5月～12月までの日記と僕の学校生活紹介プレゼンのスライドに書かれた文字数を単純にカウントしたものである。図-1からもわかるように、5・6月期に比べて11・12月期の平均文字数は3倍に伸びている。

また、図-2では、文中に使用された「状況や心情を表す単語数^{※1}」についても5・6月期に比べて11・12月期では約3倍となっていることがわかる。このようにICT技術によって書字困難の抵抗を軽減することと、画像を取り入れることで多くの語彙を習得することとなったと考える。表-1は日記に書かれた新しい表現を採取した表である。この中で「泣いてもがんばる」「えらい」はクラスメンバーが泣きながらプリント課題に取り組んでいることを日記に書いてきたことばである。このように他者の心情への優しい眼差しも確認できた。そして、保護者からの2月の連絡帳にも「私（母親）が仕事で遅くかえってきたときに『お母さん、はや

くごはん食べねんや』と優しく2回言ってくれました。私を気遣ったやさしいことばにとてもうれしくなりました。」と報告があった。

[keynote]の利用によって、書く内容以外にもアニメーション効果やフォントやカラーの選択など様々な表現を盛り込むことができたことは、見る人を意識したスライド作りにつながった。

発表は大型デジタルTVに接続して行ったことで、クラスメンバーの反応がよくなり、日記やスライドに対して質問や意見がたくさん集まった。時には表記の間違いや文のねじれなどを指摘されることもあったが、こうした意見も素直に聞き入れてすぐに書き直すことができた。

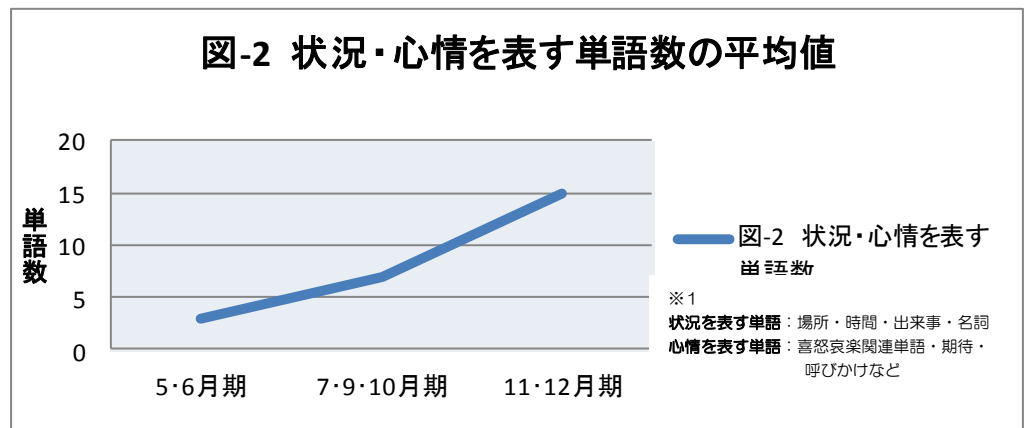
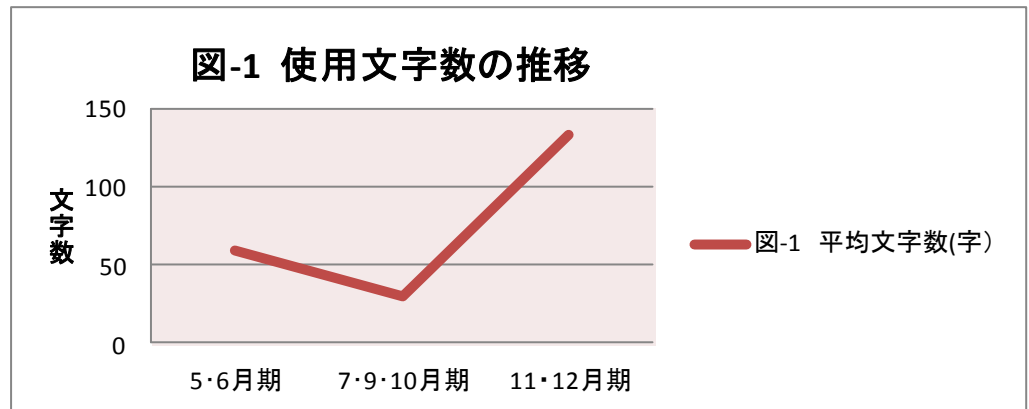


表-1 5月以降に日記に書かれた新しい言葉（表現）を出現順に並べた

・かわいい ・汗をかいてがんばる ・もっと ・さいごに ・ちょう（超） ・もりもり ・言わない
 方がいい ・そして ・だから ・二度と ・できるようになるといいです。 ・さいごに ・いつも・
 みなさんどうぞ。 ・泣いてもがんばる。 ・えらい。

書いた文を友だちに発表する活動は、文によるコミュニケーションの経験を増やし、周りの人の心情の理解につながっていったと考えている。活動が中断できなくてクラスメンバーに注意されたことで怒ってしまう等の出来事はほとんどなくなり、中断できたことを自慢げに報告するまでになっていった。同時に、自分で作った新しい目標を達成していく活動は、ことばの持つ意義とことばが持っている影響力を理解することを育て、結果として行動を適切に調整できるようになっていったと考えている。



筆順辞典

◆追記：また、iPad を使った文作りと並行して6月より書字による作文や漢字学習を始めたが、書字による文作りも大きく上達した。その後、日記に漢字を使う意欲も高まったので[筆順辞典]を、漢字の思い出し辞書として利用した。書字の指導は助詞・カタカナ表記・穴埋め作文・特殊音節等のプリント課題や文の教師自作のオリジナル作文の視写を並行して行い、11月からは書字による自由日記課題に取り組むことができた。2月現在で毎日300字程度の日記を書いてくることができるようになっている。

【今後の見通し】

文字（文）はコミュニケーションツールであると本児は感じ出している。そこで、今後はコミュニケーションツールとしての幅を広げることと、文字による情報収集という側面について支援を検討したい。

具体的には①担任からの連絡情報をメールで受け取り「1人で翌日の準備をする」や「翌日の選択課題学習内容を決定する」などの自己決定の経験。②「持ち帰った学習課題等についての質問や報告する」などをメールで発信の経験を支援したい。さらに、情報収集手段としてOCR機能を備えた読み上げアプリの利用によってお気に入りの情報を収集できる支援を検討したい。

ICTツールを利用することで、自己決定の幅を拡大できるように今度の活動の内容を検討したいと考える。